看病人も爽快ほどが、患者にも可ものなり、病人なればとて、頻温暖て、良ものと思は、愚昧なることなり、とかくに其平素に背たるは、必害あり、貴賤貧富、其分に從て、病者の處置は異とも、唯其身に習慣ま、なるを佳とす、近屬或僻邑にて、丐嫗の、痘兒の灌膿の眥なるを負て、村里に食を乞たるを、一富豪之を視て、憐愍なることに思ひ、寵厦の旁に、子舍のありしに入しめて、飯など與、醫を招て藥を服しめ、痘の收までは、此に居てとらせんとて、懇切なるを、丐嫗も、嬉てありしに、其夜中に、さしも盛に膿たる痘、忽に沒て、苦悶に驚躁、醫を乞て診せしむれば、此醫師、やゝ、儇利たるものにやありけん、是は全寒風霜雪をも避ず、慣きたりしものが、卒に室中にて、鬱閉たるが故に、如茲變證も發たるならん、試に露地へ出おきてみるべしといひて、夜中に、戸外へ藁筵を延て、乞子の母子を出し居、さて詰旦てみれば、豆瘡再快發し、膿も十分に灌て、それより微の惱もなく收靨たりと聞り、是其常に背て、初の變證も發たるなれば、これらのことにても、病あればとて、蒼卒に其素習に異なるは、宜からぬ理をも推知すべし、

醫書

〔本朝書籍目錄〕醫書

大同類聚方百卷安部眞直、出雲廣貞等奉勅撰、　撰攝養決廿卷物部廣貞撰　金蘭方五十卷菅原峯嗣奉勅與諸名醫撰　掌中方一卷輔仁撰　醫心方卅卷丹波雅忠撰、或康賴撰、　倭名本草大醫博士深輔仁奉勅撰　難經開委一卷廣貞撰　集注大素卅卷小野藏根撰　養生抄七卷輔仁撰　養生秘抄一卷

〔本朝醫考下〕本朝醫書目錄

治瘡記　一卷　大村直福撰
攝養要決　二十卷　物部廣泉撰
金蘭方　五十卷　菅原岑嗣撰
藥經　和氣廣世撰